

H27 年度 8020 公募研究報告書抄録 (採択番号：15-5-12)

研究課題：国保特定健診事業への歯科検診の導入に関する研究 (歯科疾患と全身の健康状態の関連および歯科保健指導による生活習慣病改善効果)

第2報 CPITN の改善と特定健診結果との関連

研究者：栗田 浩, 唐澤今人

所属：国立大学法人信州大学医学部歯科口腔外科学教室

【目的】

本研究の目的は、国保特定健診に成人歯科検診を試験的に取り入れ、歯科検診および歯科保健指導の国保特定健診事業への導入による、生活習慣病の改善・予防効果の検証、歯科口腔保健の推進効果、費用対効果の検証を行う事である。本年度は、本研究の初年度 (H26 年) と本年度 (H27 年度) 2 年間に渡り歯科検診を受診した受診者を対象に、歯科疾患の改善と特定健診結果との関連について検討したのでその概要を報告する。

【対象および方法】

対象は、塩尻市特定健診受診者 (30 歳～74 歳、H27 年度 2,526 人) のうち歯科検診に同意が得られ歯科検診を行った 717 名中、H26、27 年の 2 年間ともに歯科健診を受診した 403 名 (男性 196 名, 女性 207 名) である。「標準的な成人特定健診プログラム・保健指導マニュアル」(平成 21 年社団法人日本歯科医師会) に沿って歯科検診および歯科保健指導を行った。2 年間の結果から、CPITN 改善群と非改善群の 2 群間で、メタボリックシンドローム (MS) 診断基準項目、および、国保特定健診検査値の変化を比較検討した。

【結果】

特定健診への歯科検診の導入により、被験者の行動変容が図られ、かかりつけ歯科医院受診率の上昇、未処置歯数の減少につながっていた。CPITN 改善群では MS 該当項目数が減少した率が 31.1%であったのに対し、非改善群では 15.4%であり、CPITN の改善と MS 基準の該当項目数に有意な関連がみられた (χ^2 検定 $p < 0.05$)。中身をみると、血圧に関して CPITN 改善群と非改善群で有意な改善率の差 (18.3% vs. 9.4%, χ^2 検定 $p < 0.05$) がみられた。また、CPITN 改善群で空腹時血糖が減少した受診者が 57.7%であったのに対し、非改善群では 46.5%であり、CPITN 改善で空腹時血糖値の改善率が高い傾向 (χ^2 検定 $p = 0.086$) がみられた。

【考察およびまとめ】

短期間の追跡調査であるが、歯周病の改善がメタボリックシンドローム基準の該当数減少、血圧基準の改善、空腹時血糖値の低下につながる可能性が示唆された。まだ 2 年間の調査であり、今後のさらなる検討が必要である。